

並河靖之 七宝展

明治七宝の誘惑 - 透明な黒の感性



平成29年

10月28日(土) ~ 12月25日(月)

※会期中無休

- ◆ 開館時間... 午前9時30分 ~ 午後5時30分(入館は午後5時まで)
- ◆ 入館料... 一般1,000円(4枚セット券3,000円) / 大学生800円 / 高校生500円 / 中学生以下無料
- ◆ 主催... 公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム、毎日新聞社
- ◆ 後援... 中日新聞社、朝日新聞社、NHK津放送局、三重テレビ放送
- ◆ 協賛... 岡村印刷工業

講演会

11月23日(木・祝) 午後2時
講師: 大木香奈氏(東京都庭園美術館・学芸員)

菊紋付蝶松唐草模様花瓶(一对のうち)
(明治中期)
総本山泉涌寺蔵

並河靖之七宝展

明治七宝の誘惑 - 透明な黒の感性

明治時代、輸出用美術工芸として人気を博した七宝。並河靖之（なみかわ・やすゆき、1845-1927）は、その中でも有線七宝の繊細さと漆黒の釉により頂点を極めた七宝家です。没後90年を記念する本展は、初期から晩年までの作品を網羅する、初めての回顧展です。

京都の武家に生まれた靖之は、久邇宮朝彦親王に仕えたのち、明治維新後に七宝業に取り組み始めます。知識や資材が無い中、試行錯誤して技術・意匠の改良を進め、やがて内外の博覧会で成功を収めます。工房には外国からの文化人が多数訪れ、「京都並河」ブランドは新聞や雑誌を通して海外へと紹介されました。明治29年（1896）には

帝室技芸員となり、当代一流の工芸家としての地位を確立します。大正期に入ると七宝業全体の生産額が落ち込み、並河も工房を閉鎖、その名は次第に忘れ去られて行きました。

しかし近年、明治工芸への関心の高まりに伴い再び注目が集まっています。細密な植線、豊かな色彩、四季折々の花鳥風月、そして研ぎ澄まされた透明な黒い釉薬一。類まれな技術のみに留まらず、洗練された感性に基づき制作された七宝は、100年以上の時を経てなお光を放ち、人々を魅了します。本展では、七宝作品に加え、下絵等の関連資料を通して、その全容を明らかにします。



花鳥図飾壺
〈明治後期〉
清水三年坂美術館蔵



菊御紋章藤文大花瓶
〈明治後期-大正時代〉
並河靖之七宝記念館蔵



桜蝶図平皿
〈明治中期〉
京都国立近代美術館蔵



菊唐草文細首小花瓶
〈明治中期〉
並河靖之七宝記念館蔵



花鳥図飾壺
〈明治後期〉
清水三年坂美術館蔵



龍文瓢形花瓶
〈明治中期〉
ギャラリー・グリシース蔵

次回展示のお知らせ

会期 平成30年1月2日 火 ~ 2月25日 日 没後50年 河井寛次郎展

近代陶芸を代表する陶芸家、河井寛次郎（かわい・かんじろう / 1890~1966）は鳥根県安来市に生まれ、東京高等工業学校（現・東京工業大学）で陶芸を学びました。1920年京都五条坂の清水六兵衛の窯を譲り受け、中国・朝鮮の古陶磁を研究しつつ独自の技法と作風を作りあげました。また、柳宗悦、濱田庄司らとともに民藝運動を推進し「用の美」を追求しました。本展では京都の旧宅であった河井寛次郎記念館所蔵の作品を中心に陶芸や木彫や書、調度類など約150点を紹介し、寛次郎の仕事の全貌と、その深い精神世界を辿ります。

■お車をご利用の場合 / 東名阪「四日市I.C.」より国道477号（湯の山街道）を湯の山方面へ約6.5km。 ■無料駐車場有り（普通車100台、大型バス駐車可）
■電車をご利用の場合 / 近鉄「四日市駅」下車、近鉄湯の山線に乗り換え約25分、「大羽根園駅」下車、西へ300m。 ■全館バリアフリー、車椅子常備

